

修士論文（要旨）
2024 年 7 月

日本留学を目指す中国人学習者の ICT 活用の実態に関する考察

指導 齋藤 伸子 教授

国際学研究科
国際学術専攻
グローバルコミュニケーション実践研究学位プログラム
222J1902
水 源

Master's Thesis (Abstract)
July 2024

An Examination of the State of ICT Utilized
by Chinese Learners Aiming to Study in Japan

SHUI YUAN
222J1902

Master of Arts Program in Global Communication
Master's Program in International Studies
International Graduate School of Advanced Studies
J. F. Oberlin University
Thesis Supervisor: Nobuko Saito

目次

第1章 はじめに	1
1.1 研究背景	1
1.1.1 社会的背景	1
1.1.2 技術的背景	2
1.2 論文の構成	3
第2章 先行研究と研究課題	4
2.1 用語の定義	4
2.1.1 「ICT」の定義	4
2.1.2 「活用」の定義	5
2.2 ICT活用と日本語教育に関する研究	5
2.2.1 日本における研究の現状	5
2.2.2 中国における研究の現状	6
2.3 先行研究のまとめ	6
2.3.1 先行研究から得られた知見	6
2.3.2 先行研究に残された課題	7
2.4 理論的枠組	7
2.4.1 構築型教育・学習モデル	7
2.4.2 道具的動機づけと統合的動機づけ	8
2.4.3 「学習成果」の定義	9
2.5 研究課題	9
2.5.1 研究目的	9
2.5.2 研究課題	9
2.6 研究方法	10
2.6.1 研究のアプローチ	10
2.6.2 リサーチクエスションに応じた分析方法	11
第3章 アンケート調査	12
3.1 調査概要	12
3.1.1 アンケート調査の内容	12
3.1.2 アンケート調査の協力者	12
3.1.3 アンケート調査の手続き	12
3.2 回答の内訳	13
3.2.1 基本情報	13
3.2.2 日本語能力	13
3.2.3 進学状況	14
3.3 回答のまとめ	15
第4章 アンケート結果の分析	16
4.1 中国人留学志願者の日本語学習における ICT 活用状況	16
4.1.1 研究課題 a-1: 中国人留学志願者の属性による ICT の活用状況の違い	16
4.1.2 研究課題 a-2: ICT 活用の各ツールに対する評価	20
4.2 ICT 活用と日本語学習の関係	23

4.2.1 研究課題 b-1: ICT 活用と日本語学習動機との関係	24
4.2.2 研究課題 b-2: ICT 活用と進学状況との関係	25
4.3 ICT 活用の困難点と効果的な方法	29
4.3.1 研究課題 c-1: ICT 活用際の困難点	29
4.3.2 研究課題 c-2: 効果的な ICT の活用方法	31
4.4 まとめ	32
第 5 章 インタビュー調査結果の考察	33
5.1 インタビューの概要	33
5.1.1 インタビューの内容	33
5.1.2 インタビューの対象者	33
5.1.3 インタビューの手順	33
5.2 回答者の内訳	34
5.2.1 ストーリー・ライン	34
5.2.2 理論記述	34
5.2.3 迫及すべき課題	34
5.3 インタビューの結果	35
5.3.1 各 ICT ツールの利用頻度	35
5.3.2 日本語学習の動機づけ	35
5.3.3 ICT ツールの活用と動機づけの関係	37
5.4 ICT の活用評価	39
5.4.1 情報獲得	39
5.4.2 学習意欲	39
5.4.3 学習成果	40
5.5 まとめ	41
第 6 章 おわりに	42
6.1 研究内容のまとめ	42
6.1.1 アンケート結果のまとめ	42
6.1.2 研究課題のまとめ	42
6.1.3 インタビュー結果のまとめ	44
6.2 オリジナリティーと課題	46
6.2.1 本研究のオリジナリティー	46
6.2.2 今後の課題	46
付属資料	
参考文献	

本研究は、日本に留学を目指している、あるいは目指したことがある中国人日本語学習者を対象に、ICT（情報通信技術）の活用が日本語学習に与える影響について調査・分析したものである。以下に、研究の背景、目的、方法、および主要な結果と結論をまとめる。

近年、ICT の発展により、教育現場でもその活用が進んでいる。特に、日本語を学ぶ外国人にとって、ICT は効果的な学習ツールとなり得る。しかし、具体的な効果や活用方法については、まだ十分に解明されていない。本研究は、このギャップを埋めることを目的とする。

本研究の目的は、ICT が中国人日本語学習者の学習意欲や成果にどのような影響を与えるかを明らかにすることである。特に、学習者がどのように ICT を利用しているか、その利用が学習動機や成果にどのように関連しているかを探ることを目指す。以上の目的を明らかにし、ICT 活用効果を促進するための知見を見出し、以下の研究課題を設定する。

課題 a: 中国人留学志願者の日本語学習における ICT 活用状況はどうなっているか。

a-1: 中国人留学志願者の属性(学習期間、日本語能力、性別、ICT 利用ツール、利用頻度)による ICT の活用状況の違いはどのようなものか。

a-2: ICT 活用の各ツールに対する評価はどうなっているか。

課題 b: 中国人留学志願者の日本語学習における ICT 活用状況と日本語学習との関係はどうなっているか。

b-1: ICT 活用と日本語学習動機とどのような関係があるか。

b-2: ICT 活用と進学状況とはどのような関係があるか。

課題 c: 中国人留学志願者の日本語学習におけるより効果的な ICT 活用方法はどのようなものか。

c-1: ICT 活用際の困難点はどのようなものか。

c-2: 効果的な ICT 活用方法を提案する。

本研究は、アンケート調査とインタビュー調査を実施した。アンケート調査は、日本留学を目指している、また目指したことがある中国人日本語学習者を対象に、ICT の利用状況や学習動機、学習成果などに関するデータを収集した。インタビュー調査は、アンケート調査で得られた結果に加え、個別の具体的な情報や事例を得るために実施した。

本研究では、以下のリサーチクエスションの分析方法でアンケート調査のデータとインタビューの内容を分析した。量的分析の方法では、平均値・標準偏差、分散分析、クロス集計、探索的因子分析、相関分析、*t* 検定を使い、研究課題 a、b を検証した。質的分析の方法では、SCAT、クラスター分析を使ってインタビューの内容と研究課題 c を分析した。

研究結果は以下のとおりである。まず、ICT の利用状況を明らかにした。多くの学習者が ICT を活用して日本語を学んでおり、特にオンライン辞書や語学学習アプリが頻繁に利用されていることが判明した。次に、ICT 活用と学習動機などの関係がわかった。ICT を活用することで学習意欲が向上する傾向が見られた。特に、インタラクティブな学習ツールや SNS を通じたコミュニケーションが、学習動機の維持に影響している。最後に、ICT 活用と学習成果の関係がわかった。ICT の活用により、語彙力や聴解力の向上が確認された。一方で、ICT を利用した学習だけでは、会話力や作文力の向上には限界があることも明らかになった。

本研究の結果は、ICT の活用は日本語学習において有効であることが示された。ただし、すべての言語スキルを均等に向上させるためには、ICT を補う形での対面授業や実践的な練習が不可欠であることも示唆された。今後の課題として、ICT を活用した学習方法のさらなる最適化や、学習者の個別ニーズに対応したツールの開発が挙げられる。

参考文献

【書籍】

- 青木直子, 尾崎明人, 土岐哲編. 日本語教育学を学ぶ人のために. 世界思想社, 2001, 252p.
- 青木直子, 中田賀之編. 学習者オートノミー: 日本語教育と外国語教育の未来のために. ひつじ書房, 2011, 271p.
- 青木直子, バーデルスキー・マッシュー編. 日本語教育の新しい地図—専門知識を書き換える—. ひつじ書房, 2021, 309p.
- 安藤明之. 初めてでもできる社会調査・アンケート調査とデータ解析. 第三版, 日本評論社, 2021, 262p.
- 石村光資郎, 石村友二郎. 卒論・修論のためのアンケート調査と統計処理. 東京図書, 2014, 204p.
- 李在鎬. ICT×日本語教育—情報通信技術を利用した日本語教育の理論と実践. ひつじ書房, 2019, 289p.
- 上野千鶴子. 構築主義とは何か. 勁草書房, 2001, 305p.
- 内田治. アンケート調査の計画と解析. 日科技連, 2022, 194p.
- 鵜沼秀行, 長谷川桐. はじめての心理統計法. 改訂版, 東京図書, 2016, 325p.
- 袁通衢. 中国日本語専攻生の ICT メディア・リテラシーの発達状況に関する実証的研究. 北京外国語大学, 2019, 修士論文.
- 王沁怡. 大学専攻日本語教育における教師の ICT 活用態度と ICT 活用行動に関する研究. 北京外国語大学, 2020, 修士論文.
- 大谷尚. 質的研究の考え方: 研究方法論から SCAT による分析まで. 名古屋大学出版会, 2019, 403p.
- 岡益巳, 深田博己. 中国人留学生と日本. 白帝社, 1995, 224p.
- 久保田賢一, 岸磨貴子編. 大学教育をデザインする: 構成主義に基づいた教育実践. 晃洋書店, 2012, 221p.
- 久保田賢一編. 高等教育におけるつながり・協働する学習環境デザイン: 大学生の能動的な学びを支援するソーシャルメディアの活用. 晃洋書店, 2013, 241p.
- 久保田賢一, 今野貴之. 主体的・対話的で深い学びの環境と ICT—アクティブ・ラーニングによる資質・能力の育成. 東進堂, 2018, 228p.
- 京都大学高等教育研究開発センター編. 生成する大学教育学. ナカニシヤ出版, 2012, 343p.
- 小泉政利編. ここから始める言語学プラス統計分析. 共立出版, 2016, 336p.
- 小柳かおる. 第二言語習得について日本語教師が知っておくべきこと. くろしお出版, 2020, 169p.
- 佐藤仁, 伊藤亜希子, 和田美千代編. ICT を活用する新しい時代の教育方法. ミネルヴァ書房 2022, 212p.
- 孫安石, 大里浩秋. 中国人留学生と「国家」・「愛国」・「近代」. 東方書店, 2019, 345p.
- チャールズ・C・レイガン; 鹿又伸夫監訳. 社会科学における比較研究: 質的分析と計量的分析の統合にむけて. ミネルヴァ書房, 1993, 254p.
- 都築誉史編. ICT・情報行動心理学. 北大路書房, 2017, 170p.
- 西内章. ソーシャルワークによる ICT 活用と多職種連携 支援困難状況への包括・統合的な実践研究. 明石書店, 2018, 219p.
- 山内祐平. 学習環境のイノベーション. 東京大学出版会, 2020, 275p.
- 山口富子編. インタビュー調査法入門: 質的調査実習の工夫と実践. ミネルヴァ書房, 2023, 242p.

山田忠雄, 倉持保男, 上野善道, 山田明雄, 井島正博. 新明解国語辞典第八版. 三省堂, 2020, 1792p.

山田智久. ICT の活用. くろしお出版, 2012, 301p.

【ウェブサイト】

伊藤秀明, 石井容子, 武田素子, 山下悠貴乃. 日本語学習者のネット利用状況と学習サイトへの期待—海外 11 拠点の調査結果から—. 国際交流基金日本語教育紀要. 2016, 12, p.97-104. <https://jpf.repo.nii.ac.jp/records/149>, (入手 2023-09-10)

全球化智库. “中国留学発展報告”. CCG 全球化智库. 2022. <http://www.ccg.org.cn/archives/71836> (2022 年), (参照 2023-09-21)

総務省. “ICT 用語集”. <https://www.soumu.go.jp/soutsu/tokai/tool/yougo/yougo.html#I>, (参照 2023-05-30)

日本学生支援機構. “2022(令和 4)年度外国人留学生在籍状況調査結果”. Study in Japan ホームページ. 2022. <https://www.studyinjapan.go.jp/ja/statistics/zaiseki/data/2022.html>, (参照 2023-09-21)

文化庁. “日本語教育の参照枠”. https://www.bunka.go.jp/seisaku/kokugo_nihongo/kyoiku/chiikinihongokyoiku/r05_boshu/pdf/93841301_04.pdf, (参照 2023-06-11)

文部科学省. “教育の情報化ビジョン～21 世紀にふさわしい学びと学校の創造を目指して～”. https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2017/06/26/1305484_01_1.pdf, (参照 2023-05-30)